令和７年度スモール・ステップ・ルーム（ＳＳＲ）設置中学校における生徒アンケート及び教員アンケート結果

１　実施状況

（１）対象

ア　ＳＳＲを利用している生徒

イ　ＳＳＲ指導員（非常勤教員又は会計年度任用職員）

（２）有効回答数

利用生徒数	回答者	回答数	回答率
143 人	生徒	109 人	76.2%
	ＳＳＲ指導員	生徒 143 人分	100.0%

（３）期間

令和７年１１月１７日から同年１２月１６日まで

（４）内容

ア　利用生徒に対するアンケート

（ア）現在、ＳＳＲをどのくらいのペースで利用しているか

（イ）現在のＳＳＲの居心地について及びその理由

（ウ）今後もＳＳＲを利用したいと思うか

（エ）現在もＳＳＲがあることで以前と比較して学校に登校しやすくなったか

（オ）ＳＳＲに対する要望や希望

（カ）ＳＳＲを利用しようとした理由やきっかけ（９月からの利用生徒対象）

イ　ＳＳＲ指導員アンケート

（ア）ＷＥＢＱＵ（学級満足度等）の変化

（イ）登校状況の変化

（ウ）友人関係の変化

（エ）リモート授業の活用

（オ）課題・宿題等の取組状況

（カ）その他の変容

２　利用生徒のアンケート結果

（１）利用生徒の内訳

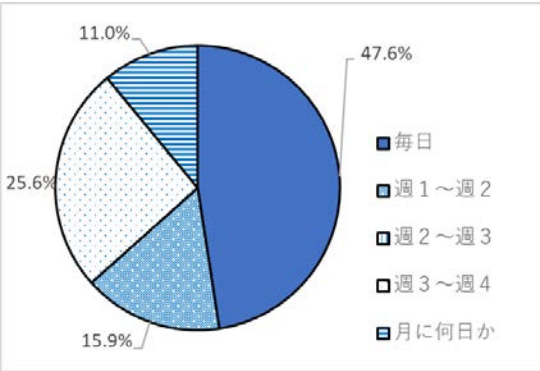
学校名	第１学年	第２学年	第３学年	計
第一中学校	3	0	10	20
第五中学校	5	0	0	5
第十二中学校	1	5	3	9
新田中学校	2	7	2	11
東島根中学校	2	3	5	10
鹿浜菜の花中学校	4	1	4	9
西新井中学校	3	3	9	15
蒲原中学校	3	5	12	20
加賀中学校	6	8	4	18
六月中学校	14	4	8	26
計	43	43	57	143

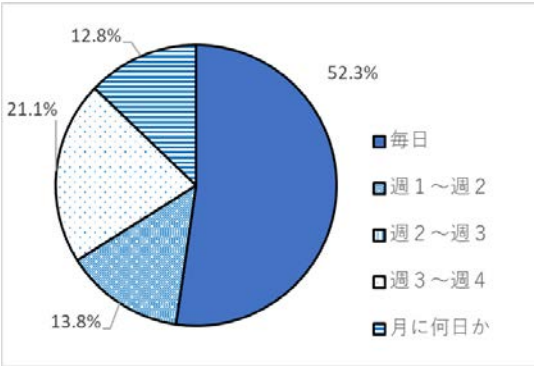
※　利用生徒１４３人中、７９人（５５％）が不登校であったが、ＳＳＲが開設されたことで、登校できるようになった。

（２）アンケート項目の回答結果（回答数　第１回８２人　第２回１０９人）

ア　現在、ＳＳＲをどのくらいのペースで利用しているか

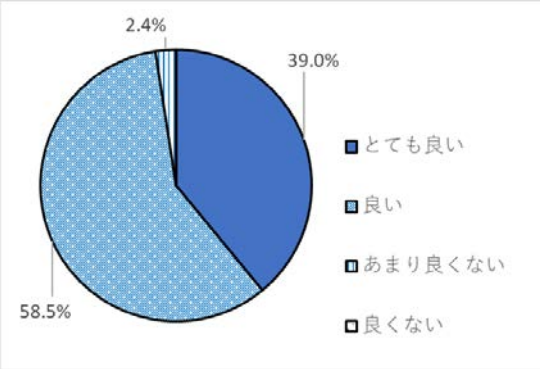
	第１回アンケート		第２回アンケート	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
毎日	39	47.6	57	52.3
週１～週２	13	15.8	15	13.8
週２～週３	0	0.0	0	0.0
週３～週４	21	25.6	23	21.1
月に何日か	9	11.0	14	12.8

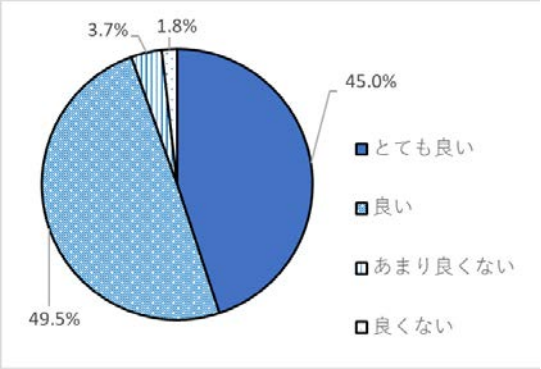




イ　現在のＳＳＲの居心地はどうか及びその理由

	第１回アンケート		第２回アンケート	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
とても良い	32	39.0	49	45.0
良い	48	58.6	54	49.5
あまり良くない	2	2.4	4	3.7
良くない	0	0.0	2	1.8





ＳＳＲの居心地について、「とても良い」「良い」と回答した生徒の理由

（ア）自分のペースで過ごせる安心感がある。

（イ）落ち着いて集中できる環境である。

（ウ）人間関係の良さ・教員の支援的な雰囲気がある。

（エ）居心地・快適さ・楽しさがある。

（オ）学習面への良い影響がある。

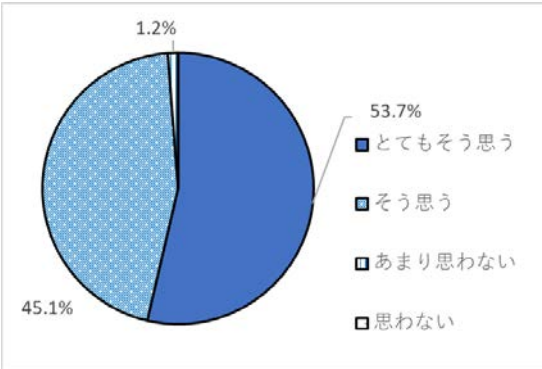
ＳＳＲの居心地について、「あまり良くない」「良くない」と回答した生徒の理由

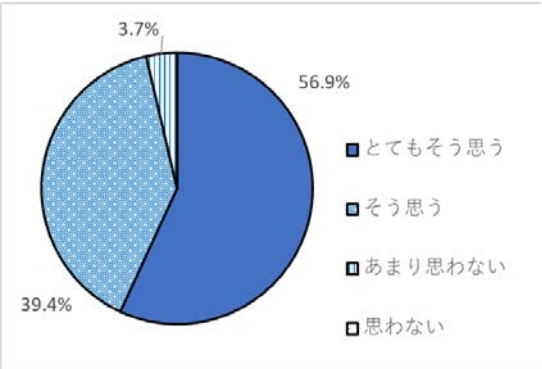
（ア）人数が多い、騒ぐ人がいるなどの環境・人数に関する課題

（イ）暴言がある、人の視線が気になる等、安全・心理的安心感に関する課題

ウ　今後もＳＳＲを利用したいと思うか

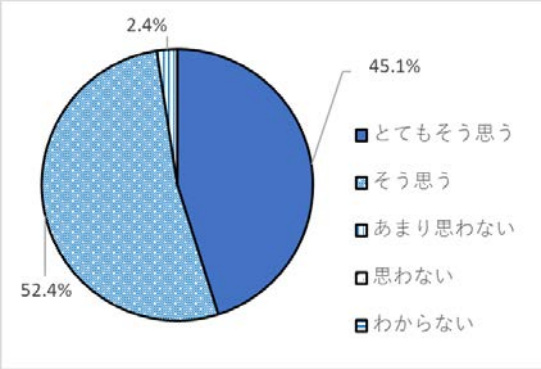
	第１回アンケート		第２回アンケート	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
とてもそう思う	44	53.7	62	56.9
そう思う	37	45.1	43	39.4
あまり思わない	1	1.2	4	3.7
思わない	0	0.0	0	0.0

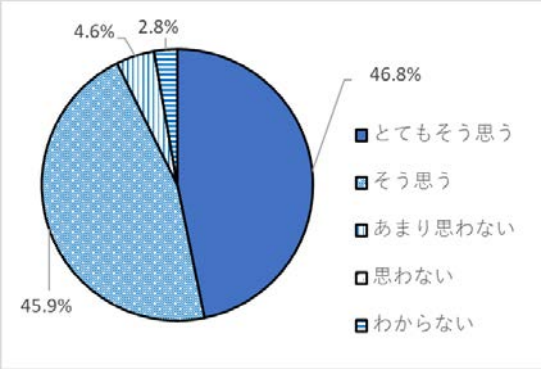




エ　現在もＳＳＲがあることで以前と比較して学校に登校しやすくなったか

	第１回アンケート			第２回アンケート	
	人数(人)	割合(%)		人数(人)	割合(%)
とてもそう思う	37	45.1		51	46.8
そう思う	43	52.4		50	45.9
あまり思わない	2	2.4		5	4.6
思わない	0	0.0		0	0
わからない	0	0.0		3	2.8





オ　ＳＳＲに対する要望や希望

（ア）安心して過ごせる空間づくりに関する要望

・個室、周りから見えない壁がほしい

・完全に視線を遮れるスペースがほしい

（イ）リラックス・安心感を高める物品

・ぬいぐるみ（たくさん・大きいもの・追加希望）

・膝掛け、柔らかい椅子

・バランスボール、マッサージ機

（ウ）遊び・交流・気分転換に関する要望

・ボードゲーム（人狼ゲーム、カードゲーム、サイコロ）

・ラジカセ

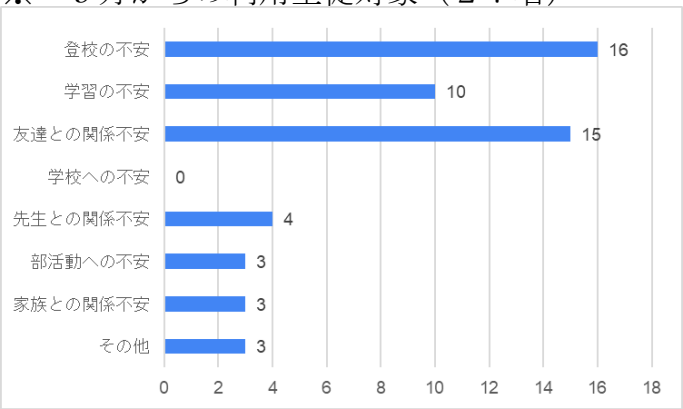
・運動ができる場所

（エ）生き物・癒しに関する要望

・金魚などの生き物

カ　ＳＳＲを利用しようとした理由やきっかけ（複数回答可）

※　９月からの利用生徒対象（２７名）

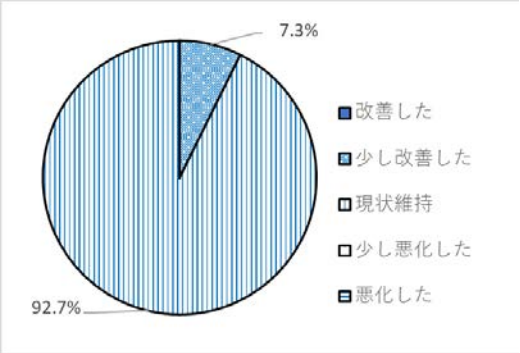


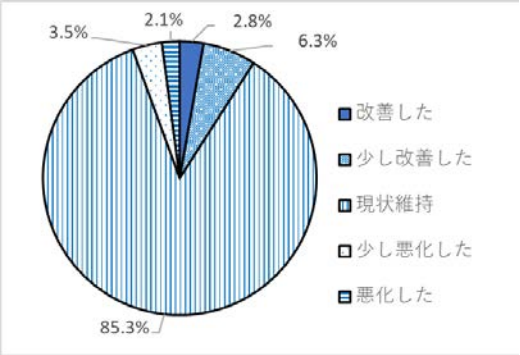
３　利用生徒に関するＳＳＲ指導員アンケート結果

（１）利用生徒に関する各項目のアンケート結果（回答数１４３人分）

ア　ＷＥＢＱＵ（学校満足度等）の変化

	第１回アンケート			第２回アンケート	
質問項目	人数(人)	割合(%)		人数(人)	割合(%)
改善した	0	0.0		4	2.8
少し改善した	6	7.3		9	6.3
現状維持	76	92.7		122	85.3
少し悪化した	0	0.0		5	3.5
悪化した	0	0.0		3	2.1

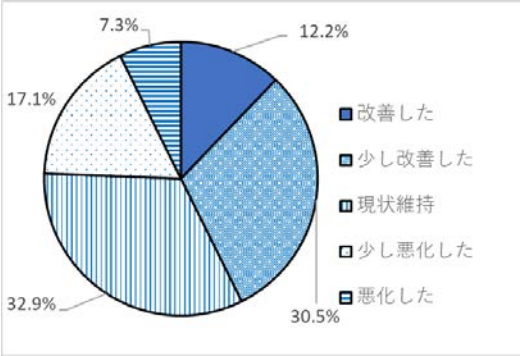


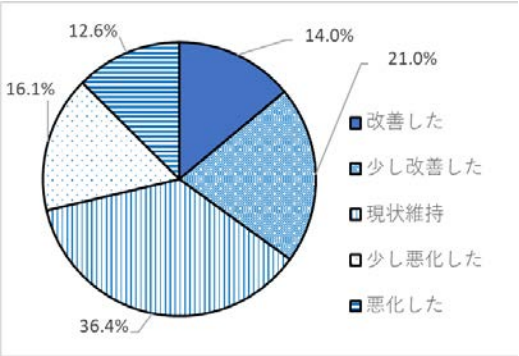


ＷＥＢＱＵは悪化したが、「ＳＳＲがあることで、学校に来られるようになった」と、保護者や生徒から発言があった。ＳＳＲに通室しながら少しずつ教室に通えるようになり、一か月後の後期の始業式からは、朝の学活から教室に行けるようになり、後期の中間考査も教室で受けることができるようになった生徒がいる。

イ　登校状況の変化

	第１回アンケート			第２回アンケート	
質問項目	人数(人)	割合(%)		人数(人)	割合(%)
改善した	10	12.2		20	14.0
少し改善した	25	30.5		30	21.0
現状維持	27	32.9		52	36.4
少し悪化した	14	17.1		23	16.1
悪化した	6	7.3		18	12.6





（ア）登校日数について

一時的に登校日数が増加した生徒もいたが、再び不定期・低頻度の登校に戻る傾向が確認された。夏休み明け以降、登校日数が月数回程度、またはほぼゼロにまで減少する傾向が見られる。

（イ）登校時刻の遅れ・時間帯の変化

登校時刻の遅延傾向が見られる。滞在時間が極めて短い登校形態も確認されている。

（ウ）進路決定後の変化

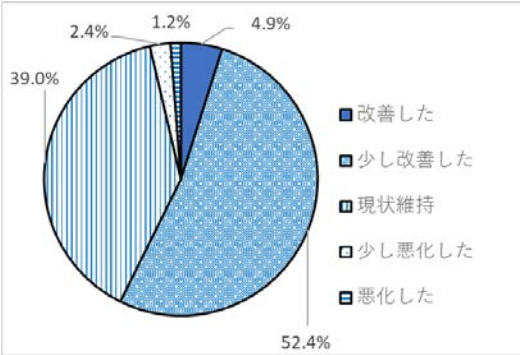
卒業後を見据えて、一定期間はほぼ毎日登校していた生徒が、進路決定後に登校時刻が遅くなる、登校頻度が低下するといった変化も見られた。

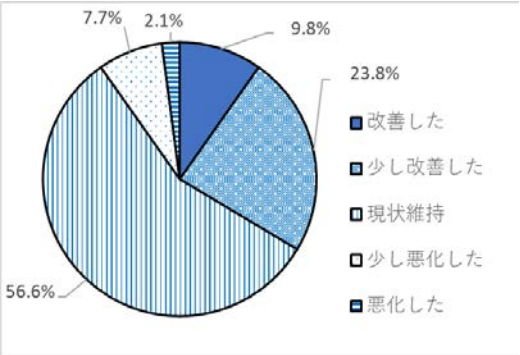
（エ）部分的な登校・限定的な関わり

登校が困難な状況にある生徒の中でも、登校できた場合は給食のみをとって下校し、校内滞在は短時間にとどまるといった、限定的な登校形態が見られる。一方で、フリースクール、教育相談機関には比較的安定して通えている生徒もおり、学校外機関とのつながりは維持されているケースも確認された。

ウ　友人関係の変化

	第１回アンケート			第２回アンケート	
質問項目	人数(人)	割合(%)		人数(人)	割合(%)
改善した	4	4.9		14	9.8
少し改善した	43	52.4		34	23.8
現状維持	32	39.0		81	56.6
少し悪化した	2	2.4		11	7.7
悪化した	1	1.2		3	2.1





（ア）積極的な発信は少ない生徒がいるが、対人関係を拒否しているわけではない。

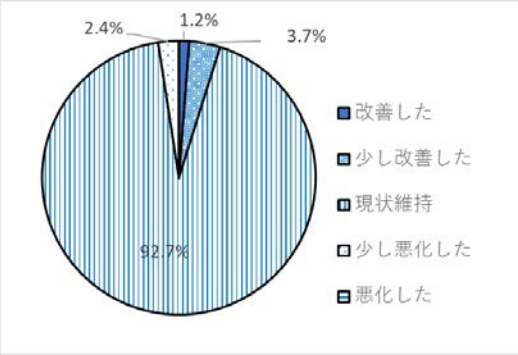
（イ）環境やメンバーの変化により、人との関わりが一時的に減少している生徒がいる。

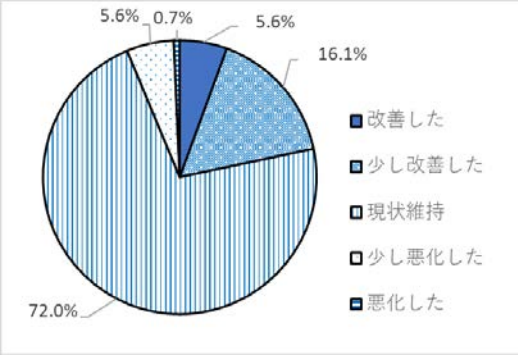
（ウ）安心できる場では、学年を越えた交流が可能である。

（エ）全く登校できなくなった生徒がいる。

エ　リモート授業の活用

	第１回アンケート			第２回アンケート	
質問項目	人数(人)	割合(%)		人数(人)	割合(%)
改善した	1	1.2		8	5.6
少し改善した	3	3.7		23	16.1
現状維持	76	92.7		103	72.0
少し悪化した	2	2.4		8	5.6
悪化した	0	0.0		1	0.7

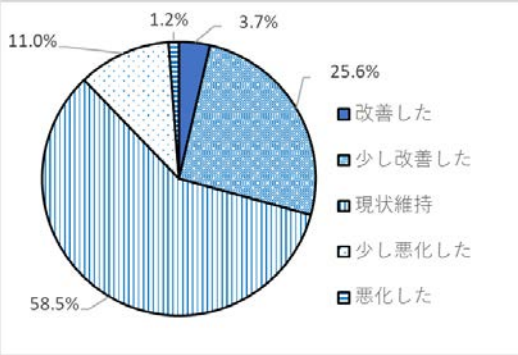


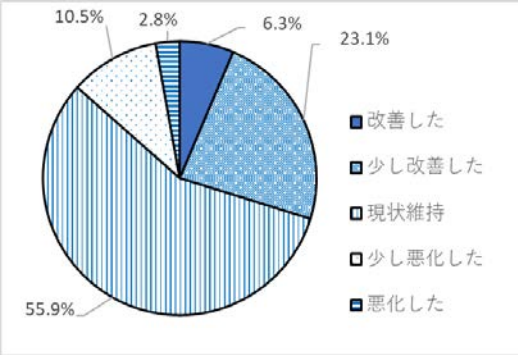


（ア）悪化した生徒はリモート授業への参加が大幅に減少している。
（イ）リモートに関わらず、学習意欲の低下が顕著である。
（ウ）学習参加が一部教科・一時的なものにとどまっている。

オ　課題・宿題等の取組状況

	第１回アンケート			第２回アンケート	
質問項目	人数(人)	割合(%)		人数(人)	割合(%)
改善した	3	3.7		9	6.3
少し改善した	21	25.6		33	23.1
現状維持	48	58.5		80	55.9
少し悪化した	9	11.0		15	10.5
悪化した	1	1.2		4	2.8





（ア）学習意欲や取組状況には大きな個人差がある。
（イ）一定時間の学習参加は可能だが、継続が難しい。
（ウ）学習以外の活動（イラスト、会話、読書等）に安心感や関心が向いている。
（エ）進路決定後に学習への優先度が下がっている。

カ　その他の主な変容

（ア）学校生活・活動面での変容

・給食時や放課後のみＳＳＲを利用するなど、限定的ながら学校との関わりを継続している生徒がいる。

・定期考査を別室で受験するなど、個に応じた配慮のもとで学習に参加している。

・図書委員を務めたり、合唱コンクールに参加したりした生徒が複数おり、学校行事や役割活動への参加が見られる。

・ＳＳＲ内では、他生徒から信頼される、学習面（数学）で他者を支援するなど、安心できる環境下で主体性や役割意識が育っている事例も確認された。

（イ）進路意識・進路決定に関する変容

・通信制高校への合格・進学予定が多数確認された。

・不登校時は、進路について考えていなかった生徒が、都立高校（定時制・チャレンジスクール）を希望し、学校説明会、学校見学に保護者と共に参加するなど、進路に向けた行動が見られた。

・一部生徒は志望校が定まらない、教室復帰へのモチベーションが低いなどの課題を抱えつつも、受験準備や情報収集を継続している。

・将来像（保育分野など）を意識し、進学先を検討する生徒もいる。

（ウ）学習・生活態度の変容

・フリーの時間においても、自発的に学習へ取り組む時間が増えてきた生徒がいる。

・ＳＳＲや外部支援を活用しながら、学習・生活リズムの安定を図る姿が見られる。

・次年度に向けて、教室復帰を目指したい、学校での滞在時間を増やしたいといった前向きな意欲が表出している生徒も確認された。

（エ）外部機関・支援資源の活用

・校内別室の通級や、「げんき」への定期的な通所など、校内外の支援資源を併用しながら成長を図っている状況が見られる。登校や学習、進路選択に向けた基盤が徐々に整いつつある。

（２）アンケートにおける学校全体としてＳＳＲの変容について

ア　生徒の学校生活・人間関係の様子

（ア）多くの生徒が明るく元気に学校生活を送っており、友人関係も概ね良好である。

（イ）他の生徒から信頼され、リーダー的な役割を果たしている生徒も見られる。

（ウ）一方で、性格的に落ち着きに欠け、他者に対して厳しい言葉を発してしまう場面があり、言動面については今後の指導課題となっている生徒もいる。

（エ）学習に対する抵抗感が強く、自ら進んで学習に取り組むことが難しい生徒もおり、学習意欲の向上が課題である。

イ　ＳＳＲ設置による心理的・行動面の変容

（ア）「ＳＳＲがあることで学校に来られるようになった」という声が、保護者および生徒から寄せられている。

（イ）ＳＳＲに通室しながら徐々に教室に行き、後期の始業式からは朝の学活より教室で過ごせるようになり、定期考査も教室で受験できるようになった生徒がいる。
（ウ）ＳＳＲの過ごし方が定着することで、自分でやりたい活動を選び、時間を意識して取り組む姿が見られるようになった。
（エ）教科によっては、授業への参加が可能となった生徒もいる。

ウ　ＳＳＲ内での集団形成・相互関係の変容

（ア）ＳＳＲの中で、生徒同士の自然な関わりが広がっている。
（イ）折り紙や写し絵などの創作活動を通して、共同で活動する時間が増加している。
（ウ）考査前には、分からないところを教え合うなど、自分たちで解決しようとする前向きな雰囲気が生まれている。

エ　個別事例から見られる変容

（ア）転入当初は表情が硬く、他者と話すことができなかった生徒が、ＳＳＲ利用をきっかけに笑顔を見せるようになり、生活リズムや体幹トレーニングを通して学校生活を長時間送れるようになった。現在は、体育や社会科の授業に参加できるまでに成長している。
（イ）クラスの人間関係に不安を抱え、泣いてＳＳＲに来室することが多かった生徒も、現在は安定した生活を送り、笑顔や自発的な発言が増加している。遅刻は見られるものの、欠席は大きく減少している。